

## 「もんじゅ」廃止署名提出第3回

今回 735 筆（計 13,241 名）

5月11日（火）「もんじゅ」廃止を求める署名（内閣総理大臣宛）の第3回目（最終）を槌田敦代表を始め4名で、内閣府に提出しました。次ページに掲載している抗議書も同時に提出いたしました。

第1回は2009年12月16日6371筆、第2回目は3月19日6135筆を提出。今回はその後の集約分を提出し計13,000筆を超えました。

昨年度中（3月末まで）に無理やり再開しようとしていたもんじゅでしたが、問題点は残したまま、遅れて5月6日に運転開始。今回は運転再開への抗議も含めた提出となりました。



今回は、核兵器級プルトニウム製造できる原子炉だというだけでなく、この6月にはロケット研究の成果が出る時期で、ミサイル製造の可能性に向けてますます核疑惑が大きくなる、とい

う指摘も含めた鑑文を添え提出しました。（次ページに掲載します。）

この間、再開の6日からわずか6日で、報道されただけでも4件のトラブル。“1日おきに何か起こしていますね”と提出時のやり取りで出るようなお粗末さ。

予想される危険に対する危機感で、もんじゅ廃止署名への関心も大きく、多くの方の協力がえられ、このような成果が挙げられたことにスタッフは感激しています。

「もんじゅ」が危険で、不経済なことは周知の事実です。

そして、「もんじゅ」が兵器級プルトニウムを製造する特殊原子炉であることを、これからもしっかりみんなに知ってもらい、廃止までがんばりましょう。また、核燃料サイクル政策をやめさせましょう。

廃止に向けての運動は続きますが、この「もんじゅ廃止署名」はひとまず終了いたします。ありがとうございました。

（追伸）皆様からのカンパ、まことにありがとうございました。収支は赤字でしたが、大変助かりました。後日のニュースで報告いたします。

「もんじゅ」廃止署名実行委員会

## 内閣総理大臣 鳩山由紀夫様

### 核兵器材料プルトニウムの製造工場

# 「もんじゅ」再開に抗議し、廃止を要請する

5月6日運転を再開した福井県敦賀市にある高速炉「もんじゅ」の運転継続に抗議します。

いわゆる高速増殖炉・再処理路線は経済的な見通しも立たず、徒に国費を浪費する存在であり、直下に活断層があることを知ったまま運転することは国民の安全を毀損する行為であります。

そればかりでなく、わが国の国是である、世界核廃絶「核なき世界」への道を妨害するという意味でも許されるべき設備ではありません。

「もんじゅ」のブランケット部で生成されるプルトニウムは、一般の原子力発電所で生成されるプルトニウムよりも同位体 239 の比率が高く、核爆弾の製造に適しています。このような原子炉が「日本を見習って」世界中で建築されることになれば、核拡散は止まらなくなるでしょう。

現在、世界で高速増殖炉に熱心な国は核兵器開発に熱心なインド・中国です。わが国もそれらの国と同様核兵器開発に熱心であると諸外国に思われても仕方がありません。

更に、2010年6月13日、宇宙航空研究開発機構(JAXA)の小惑星探査機「はやぶさ」が採取した小惑星の試料がオーストラリアに着陸する予定です。これで日本は宇宙空間からの大気圏再突入の技術を確立することになります。

核兵器というものは、単に爆弾を製造するだけではなく、それを運搬する能力まで含めて評価されます。運搬能力としては大陸間弾道弾(ICBM)を初めとするロケット技術が不可欠です。

わが国は、ミサイル用として重要な固形燃料ロケットでは世界のトップクラスの技術を誇りますが、ICBMとするには、宇宙空間から地表までいわゆる「再突入」と呼ばれる過程の技術開発は冷戦期には行ってきませんでした。しかし冷戦後に実験が行われるようになり、今回の「はやぶさ」により、技術的に完成する見込みです。

5月に「兵器級プルトニウム」を製造する高速増殖炉「もんじゅ」を稼動し、6月に「再突入」技術を確立する「はやぶさ」の帰還。

これではまるで、核武装に向けたデモンストレーションです。

4月に鳩山首相、岡田外相が関係各国に核廃絶を訴えても、相手にされないのも無理はありません。諸国が核兵器の重要性を低くする中で、日本が核兵器を開発したのでは、既存核武装国の権益が減るだけで、世界平和は遠くなるだけです。

「もんじゅ」廃止し、再処理を停止し、再処理路線を撤回し、世界に核廃絶をアピールする道こそ、唯一の被爆国であり、核廃絶を国是とするわが国のとる道である、と確信し、全国からの署名を合わせて、「もんじゅ」廃止を要請いたします。

2010年5月11日 核開発に反対する会 (代表 樋田敦)